

# 「令和5年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

【富里市立 富里中学校】

令和5年4月18日（火）に、小学校第6学年全児童、中学校第3学年全生徒を対象として、「全国学力・学習状況調査」が実施されました。本校の結果についてお知らせします。

## 1 生徒が受けた調査について

「国語」、「数学」、「英語」「生徒に対する質問紙調査」の調査が実施されました。それぞれの内容は下記のとおりです。

### 教科に関する調査

- (1) ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等  
②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※出題範囲：原則として調査する学年の前学年までに含まれる指導事項

### 質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

\*調査問題は「国立教育政策研究所」のHPで閲覧できます。

<http://www.nier.go.jp/23chousa/23chousa.htm>

## 2 本校生徒の調査結果

本校生徒の調査結果及び分析は以下のとおりです。

(1) 教科の正答率について 【※ 全国公立中学校の平均正答率（以下全国平均）との比較】

国 語	学習指導要領に示されている〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕の内容に基づき、全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題	C
数 学	学習指導要領における、「数と式」、「図形」、「関数」、「データの活用」の各領域に示された指導内容からバランスよく出題	C
英 語	学習指導要領における「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと〔やりとり〕」、「話すこと〔発表〕」、「書くこと」の各領域に示された指導内容からバランスよく出題	C

☆ 全国平均正答率との比較について

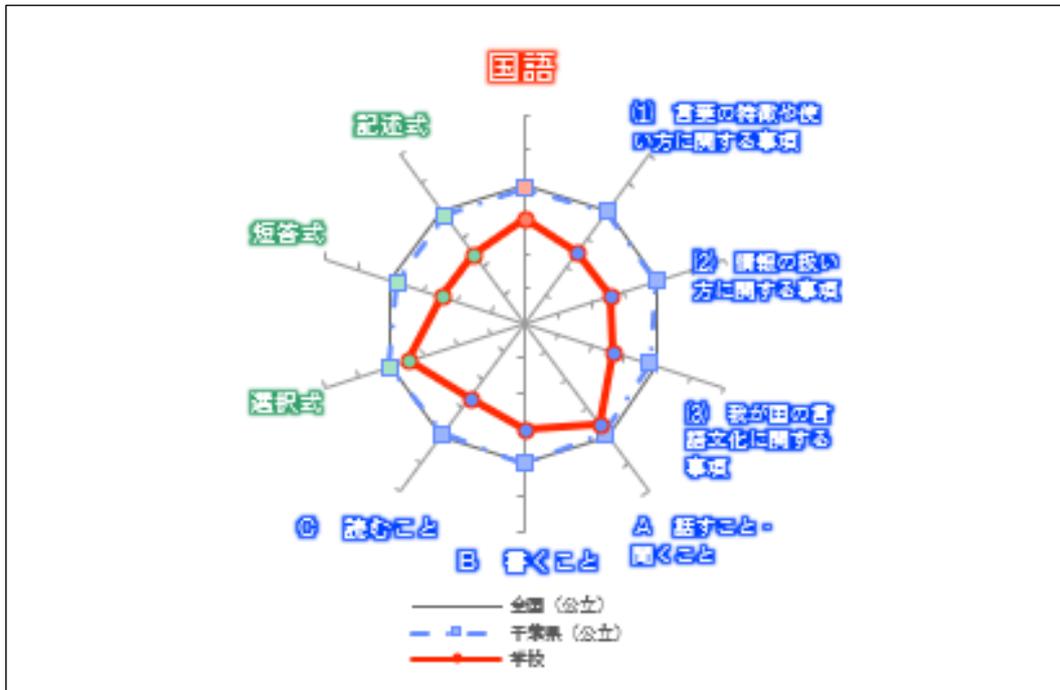
A：+5.0%より上回っている場合「良好」

B：+5.0%～-5.0%の場合「ほぼ同じ」

C：-5.0%より下回っている場合「要改善」

## (2) 教科ごとの分析

### 国語



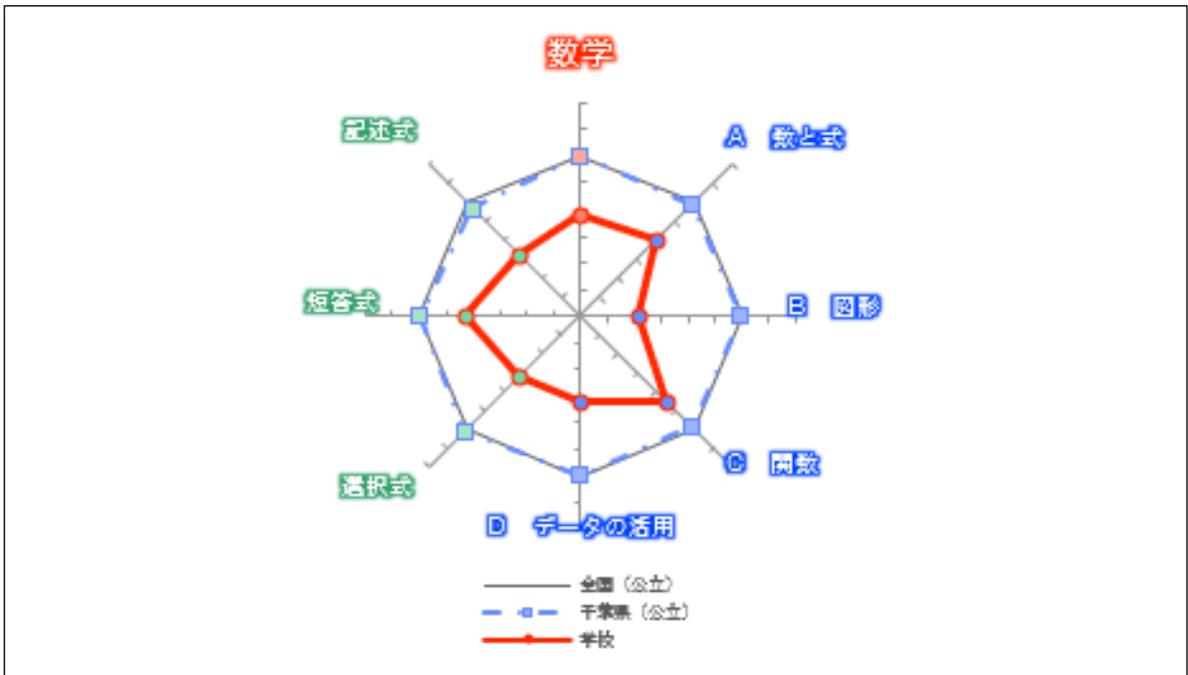
#### 【特徴と現状】

- ・本校の全体の正答率は、全国平均よりも6.8%低くなっています。
- ・知識及び技能の分野は、全国平均よりも約10%低くなっています。
- ・思考力・判断力・表現力等では、話すこと・聞くことが全国平均に近いが、読むこと書くことの正答率が低くなっています。
- ・以上のことから、本校生徒は話すことや聞くことは得意であるが、書く読むなどの国語的表現が不得意な傾向にあり、それらを使用するための知識や技能の定着が課題であると考えられます。

#### 【改善方策等】

- ・記述式の対策で、基礎知識の習得や漢字の小テスト、意味調べなどを系統的に実施していきます。
- ・文章の内容を捉える力は比較的定着しつつあります。構成や展開の流れを意識し、文章の要約に取り組んでいきます。
- ・「学び合い学習」の中で、自分の考えを発表する機会を増やし、概要を明確にして伝えたり、書いたりできるように指導していきます。
- ・授業のまとめに振り返りとして、学習内容を文章でまとめることを継続して指導していきます。
- ・本校では、各生徒が各自でノートを準備して家庭学習を行っています。国語科を自学で行う生徒は比較的少なく、行っているとしても漢字やワークが中心となっています。読み取りは比較的得意とする一方、自分の意見を書く話すなどで表現することを苦手としている生徒が多くいるため、授業中を中心に表現活動を行っています。

## 数 学



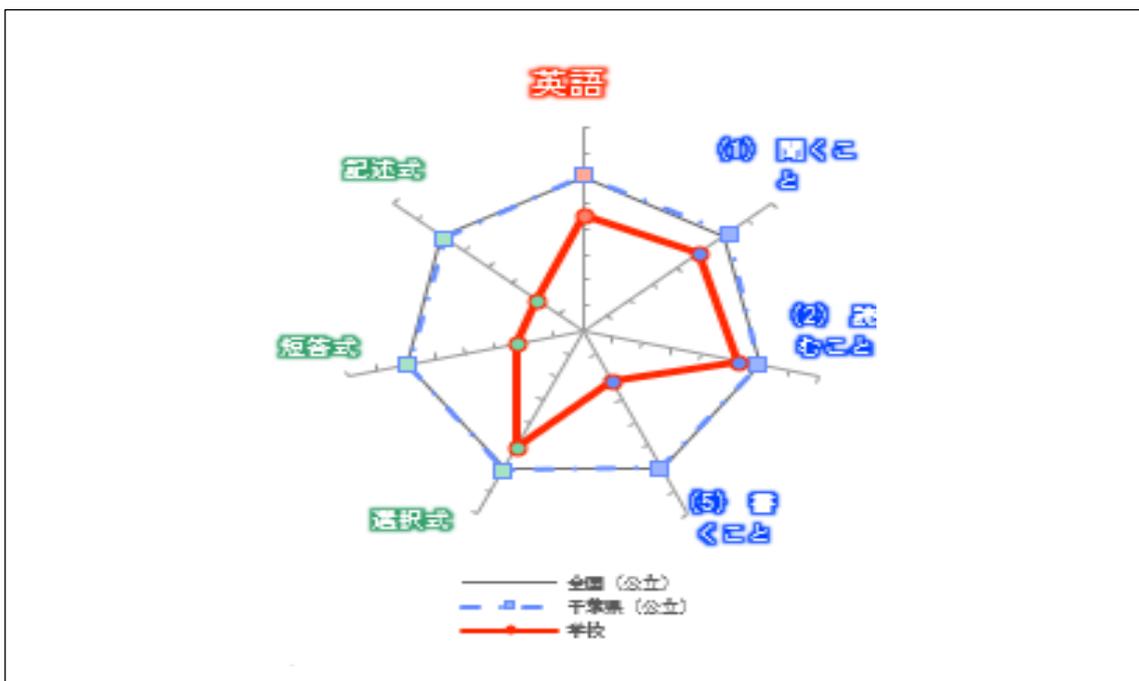
### 【特徴と現状】

- 本校の全体の正答率は全国平均よりも、約 10%低くなっています。
- 学習指導の領域の「図形」の正答率が全国平均よりも 13%低くなっています。
- 問題別調査結果による本校の誤答の内訳は、純粋な誤答の割合よりも無回答によるものが多くの設問において上回っています。
- 以上のことから、数学の基礎計算力のみならず文章を理解し、問題の意図を把握する力とその解答を論理的に導き出す力の育成が課題であることが考えられます。

### 【改善方策等】

- 基礎基本の定着を確実にを行うため、基礎的な計算ドリルを繰り返し行います。
- 少人数学習の利点を生かし、きめ細やかで的確な指導を行い、確実な理解ができるようにします。
- 中学校入学時で、算数にかなりの苦手意識を抱えている生徒が多いので、中学1年生で基礎計算力が確実に定着するように、小学校との連携を強化していきます。
- 基礎学力の定着のみならず、学習した内容を使って問題を解くような応用問題にたくさん取り組む機会を多く設けていきます。基礎を学び、基礎を使うことで学力の定着を図っていきます。

## 英 語



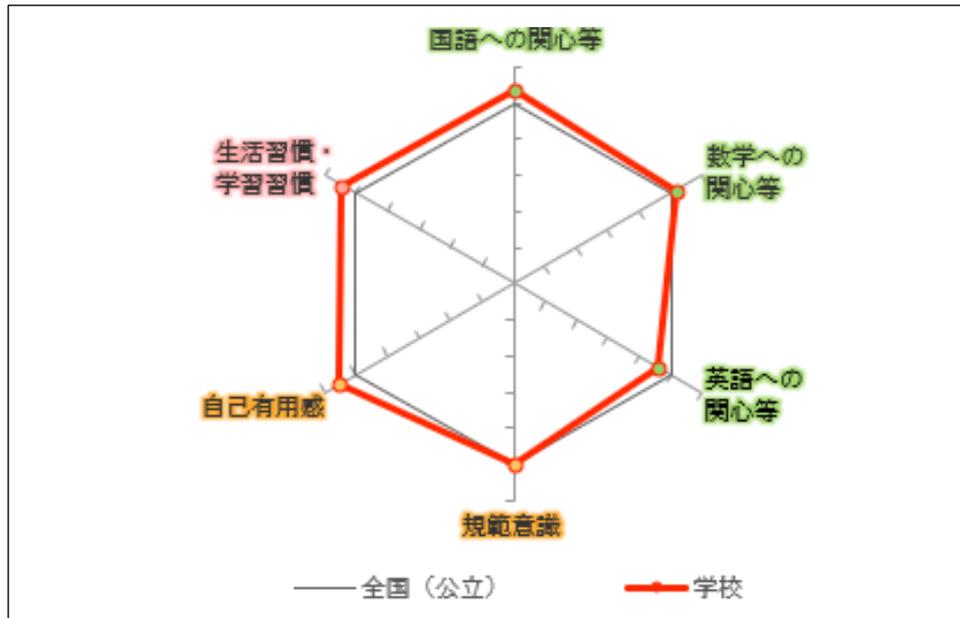
### 【特徴と現状】

- 全体の正答率は全国平均よりも、約7%低くなっています。
- 昨年度まで、本校では、英文を読む力が低下傾向にあり、そのため英語科の取り組みとして読むことに力を入れてきた結果、読むこと聞くことにおいては、例年の水準を保つことができました。
- 「読むこと」の領域の文と文との関係を正確に読み取ることができるかどうかをみる問題では、無解答率が0%かつ正答率が全国平均を上回っていました。
- 学習指導要領の領域の「書くこと」において、全国平均より約9%低くなっています。
- 本校においては、書くことを中心とした短答や記述式の正答率が著しく全国平均より低い傾向にあります。問題別調査結果にも無回答率が多く設問で上回っています。
- 以上のことから、本校は英語表現の書くことに大きな課題があると考えられます。

### 【改善方策等】

- 読むこと聞くことにおいては、英語科の取組として、授業でも中心的に行ってきており、例年と同水準を保つことができています。引き続き、読むこと聞くことの指導を続けていきます。
- 読むこと書くことに授業時間を割いたため、ライティングの時間を多くとることができなかつたことが今回の書くことのポイント低下につながっていると考えられます。端的に英文で表す習慣をつけるためにライティングの機会を今以上に確保していきます。
- 記述式を苦手としている生徒が多いことから、普段から書く活動を充実させ、慣れ親しむことからはじめ、書く機会を多くしていきます。

### (3) 生徒質問紙の結果及び分析



#### 【特徴と現状】

- ・本校生徒の各教科への興味関心は、全国平均よりも高いか同水準である。授業の内容がよくわかると答える割合も7割を超えています。
- ・本校では、平日に3時間以上勉強する生徒の割合が5%にとどまり、0～1時間の生徒が約50%となっています。土日になるとそれがより顕著になっています。
- ・本調査の数学を筆頭に、途中で解答を諦めてしまうことがあったという割合が6割を超えています。
- ・本校生徒は、授業態度は非常にまじめではあるが、論理的な思考力や家庭学習の習慣を定着させる必要があると考えられます。

### 3 まとめ

- ・今回調査が行われた3教科に関して、本校では各教科が「好き」という回答と、「授業がわかる」という回答は、全国平均を上回る結果でした。
- ・本校生徒は、学校での授業への取り組みは自己評価も高く、実際の取り組みはすばらしいものがあるが、自主学習となると平日に3時間以上学習している生徒は5%しかおらず、50%は0～1時間の学習時間であることがわかりました。
- ・今回の3教科はいずれも全国平均を下回る結果となり、各教科で改善が必要です。国語では、自分の考えを「話す書く」等で表現すること、数学では計算力と答えを導き出す力、英語では、基礎学力の定着と表現する技能の習得が課題となっています。各教科で共通していえることは、自己表現力の育成です。育成の過程で培われる思考が、「この問題は、あの考え方に似ているな。もしかしたらあと少しで解けるかも？」という思考を育み「あきらめず、答えを導くこと」につながります。このような繋がりを意識して指導していきます。
- ・本校では、今回の調査を鑑み、管理職・教務・研究主任・各教科主任と連携を図り、授業や自主学習の改善に取り組み、本校生徒の学力向上を図っていきます。